

## 晩生新品種「新之助」先行生産が行われました！

平成29年度からの一般販売を目指す、晩生新品種「新之助」の先行生産の取組が行われました。「新之助」は、農協又は米穀集荷業者が設置する「研究会」に登録された生産者が栽培することができます。

阿賀野市内でも今年度、3つの研究会で「新之助」の先行生産が行われ、全量が基準を満たした製品として出荷されました。

### 「新之助」の特徴

- 出穂期、成熟期は、コシヒカリより6～7日遅い晩生。稈長は、コシヒカリより短く、耐倒伏性は、やや強。
- いもち病抵抗性は、葉いもちがやや弱、穂いもちが弱。穂発芽性は、やや難。
- 千粒重は、コシヒカリに比べ約1g重い。
- 高温耐性が強く、玄米外観品質はコシヒカリに比べ優れる。

### 「新之助」生育の特徴

	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂数 (本/㎡)	一穂粒数 (粒)	1.0㎡当り粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)
新之助	ヒカリ+7日	ヒカリ+7日	78	380～410	66～72	27,000～ 28,000	80～88	23.0～ 24.5	540
コシヒカリ	—	—	90	380	75	28,000	90	21.5	540

### 「新之助」の生産者要件

- 県栽培指針に基づいた県内での栽培
- 栽培履歴記帳の実施
- 県の研修会等への参加
- 「新之助の生産に係る持続的改善活動」の実施

### 「新之助」の食味・品質基準

- 玄米タンパク質含有率6.3%以下
- 整粒歩合70%以上  
(農産物検査等級1等相当)
- 水分含有率14.0%以上、15.0%以下

### 「新之助の生産に係る持続的改善活動」とは・・・

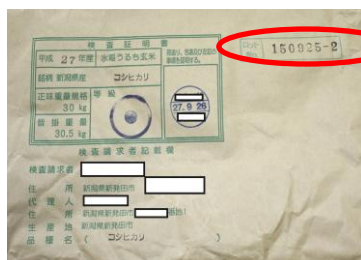
安全・安心で高品質な「新之助」生産・流通のために定められた47項目の管理基準です。「GAP」(適正農業規範)の考えに基づき、以下のような取組を行うことが定められています。

- 栽培履歴の記帳(ほ場1枚単位)
- 肥料・農薬の適正使用・適正保管
- 生育調査の実施
- 土壌診断および土づくりの実施
- 収穫・乾燥・調製施設の適正管理(整理整頓等)

今年、「新之助」の先行生産に取り組まれた生産者の皆さんは、トップブランドのお米を生産するために定められた厳しい「生産者要件」を達成するため、生育調査や持続的改善活動に取り組まれました。

その努力のたまものが、今年の成果となりました。

トップブランドのお米を生産するための高いハードルにチャレンジ！



生産物のロット管理



穂肥診断研修会



ライスセンター管理研修